



りす組に進級して一ヶ月が経ちましたね。ひよこ組から進級した子どもたちは、室内の新しい玩具に興味津々！目を輝かせながら遊んでいました。屋上園庭では滑り台やボール遊び、シャボン玉を追いかけたり、電車が通ると大きな声で「バイバイ！」と手を振っています。長久保公園では斜面の上り下りや鉄棒にぶら下がったり、シャベルを持って砂をすくって器に移したり、体の中から踏ん張る力や体幹を刺激する遊び、腕や手首の動きを促す遊びをしています。

新しくあおぞら保育園に入園した子どもたちは最初、ドキドキのスタートでしたね。保護者の方と離れるのは寂しく、声をあげ、涙を流していました。保護者の方も後ろ髪を引かれる思いだったのではないのでしょうか。慣らし保育も進み、徐々に子どもたちも保育園で過ごす時間が延び、遊べる時間も増え、食事でも食べれるようになり、声を上げたり涙を流す事が減ってきました。進級したお友だちと一緒に積み木や型はめパズルを囲んだり、お互い見つめ合って笑ったり、今では一緒に屋上園庭や長久保公園で遊んでいます。

これからも、りす組さん全員で仲良く、元気に、楽しく、健康に、過ごせるように日々、保育をしていきたいと思えます！



アイコンタクト

☆アイコンタクトとは☆

- ・お互いに視線を交わす事。
- ・互いに目と目を見つめ合う事。非言語コミュニケーションの一つ。

言葉でのコミュニケーションがまだ十分ではない子どもたちにとって、アイコンタクトは重要なコミュニケーションの一つです。

子どもたちは、嬉しい時や悲しい時、驚いた時や何かを伝えたい時、必ず身近な大人の顔を見ます。大人はその時にきちんと目を合わせながら、その子が何を伝えたいか、それまでの様子を踏まえて「〇〇楽しいね～！」や「悲しかったね・・・」「ごはんおいしいね！」「疲れちゃったかな？」等、その子の思いを考え、受け止めながら、具体的な言葉で気持ちを代弁し、共感します。

共感をする事で子どもたちは「この人は自分をわかってくれている存在なんだ」「大切な存在なんだ」と理解し、そこから愛着関係が形成されていきます。

愛着関係が形成される事で、子どもたちは大人に守ってもらえる存在だと感じ、大人に対して安心感、信頼感を持ち、今後育んでいく自己肯定感に繋がっていきます。

私たちは子どもたちに声を掛ける際、子どもの目線に合わせる事を心掛け、しっかりと目を見つめ、ゆっくり、具体的で丁寧な言葉で話をする事で愛着関係の形成に繋がっていきます。

子どもたちからも、こっち来て！と大人の手を引っ張っている子や、ポトリンコや型はめパズルが上手に出来た子が大人に見せたり、足元で猛アピールしている姿も見られます。その時、私たちは子どもたちの目を見ながら「〇〇ちゃんが入れたの？上手にできたね～」と褒めています。子どもたちは褒めてもらう事で嬉しく笑顔を見せたり、ドヤ顔を見せたり、次も見せたい、褒められたいという意欲にも繋がります。

アイコンタクトをする事で子どもたちにとって、とても大事な成長、発達に繋がっている事を意識しながら、今後も一緒に生活をしていこうと思っています。